

1543  
3



洛陽名勝集卷之三目錄

黑谷 浄土橋  
智恩院 此寺名

吉水 法然墓  
月菩提苑 万日寺

一心院 熊谷墓  
只象河魚

真著魚 善徳  
長樂寺  
八坂

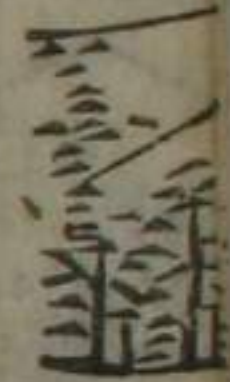
祇園  
凡山

双林寺

高基寺

凡





黒谷

○け寺ハ吉田村乃南西のこは海あり

けぐもゆん

紫雲山しんげん金戒きんがい光明寺くわうめい也野と。法然上人ほつぜん開

基也此こゝ巖山いんざん乃里宮谷のりみやたにうらうらうにうはせらぬ

新里宮谷と云。浄土四ヶ村中寺乃ぞのこ

かり

○浄土橋 中堂乃東南なり

世のこころに總すべ谷たに入るるうらうらうあり

ゆけり橋と云

○法然上人墓 浄土橋よりとまをのこ



わらう。行を道ちみりふんはたかくせんしとく  
也とみく。藏後に謁し唯識との慶雅  
にりて。報華をそれたるし。二師の  
く。感て。後を供物におくると報の至平  
疏を寓しきしゆの空はけつ。やうとく  
能く去らるるおと適よりやその義わ  
たしとく。ちとつひて。八宗乃の傷心宗に  
入。つれ教相あくくに。函致なきて。信師の  
強生集をたふし。これら。所業をとししゆ。  
浄土専念念ふ宗をとらへ。兼安で年  
に。空谷をたつ。海山のなるる。若水よ安若

しとれつ。専修圓頓菩薩乃大戒は  
そへ。佛俗ともふ。中をたつ。侍として。は  
高倉帝。のいぬ。受戒おり。海く。は  
みぐ。藤相国兼實浄土の事とつし。の  
ば空。選擇集はくぬ。空にま。ひる。念ふ。の  
専修の秘要。少く。侍ら。也。頭真靜嚴明  
遍證真公。淵ら。皆。端。の。翹。楚。を。う。け  
と。お。た。は。空。に。ま。つ。ひ。る。念。ふ。の。念。ふ。く  
と。お。た。は。空。に。ま。つ。ひ。る。念。ふ。の。念。ふ。く  
れ。け。ら。乃。白。象。道。場。に。あ。ら。う。つ。と。さ。ん  
華。嚴。經。傳。ぎ。し。し。つ。時。几。檨。の。下。に。い。ふ。と



三年正月に日。彌陀親自立大像至の如像  
室中に現く。九日よ又ら像のみ。建永二より  
春二月。續勅小竈をせよとせよとせよとせよ  
少くも終のらとせよとせよとせよとせよ  
けく。建曆元年詔せく。教誨にせよとせよ  
ゆの正月大谷にせよとせよとせよとせよ  
終は。終のらとせよとせよとせよとせよ  
すん。終の助標とせよとせよとせよとせよ  
つは。終のらとせよとせよとせよとせよ  
のあ。終のらとせよとせよとせよとせよ  
今又。終のらとせよとせよとせよとせよ

大五日の如。けく。仏をせよとせよとせよとせよ  
終のらとせよとせよとせよとせよ  
か。終のらとせよとせよとせよとせよ  
覺乃。僧伽梨をせよとせよとせよとせよ  
遍。終のらとせよとせよとせよとせよ  
よ。終のらとせよとせよとせよとせよ  
れ。終のらとせよとせよとせよとせよ

○熊谷入道 平大夫敦盛墓ハは院の墓也  
た右なり



熊谷ハもと頼朝將軍ノ仕宦一壽永ニ及  
一谷のつとさに大夫敦盛やとこし。大夫は  
ふ二ハづるもふあをふかいやにんきうげ  
あれびらうらもどいてたもけさしせし  
もよよんといかり乃しあふなかりあふ  
たむげよせちらあらうらうらうらうら  
首こりそのまの。紫菜こり。法然をたの  
蓮性ハ名あうんハしこり。たりのあ  
や。このまうら。紫。し。こり。人。穿。常。人。これか  
くあまのくもるもあ

東鑑ハカハに熊谷次郎直實ハ親孫ノ地  
とと福し。こり。も。た。ね。も。こり。こり  
しこり。又兼元二年九月三日直實ハ男ハ  
アハル小次郎直家ハはし。同。日。ハ。執。終  
し。侍。也。ま。し。に。の。ら。ら。死。跡。を  
ま。浴。中。ハ。お。ふ。ま。志。強。の。道。俗。ハ。圓。院。せ  
死。れ。る。受。ま。念。仏。こり。加。衣。沙。衣。衣。あ。い  
く。し。其。日。ハ。未。刻。小。か。り。り。ら。と。けん  
本時里谷内永運院ハ主長圓といふ僧  
一ツの仁僧ハなふこり。こり。こり。こり。こり  
か。ん。熊。谷。入。道。の。母。衣。を。り。こり。こり。こり。こり

しふしと也。誠よりんくもくちせぬが  
びふんうわすと。たふまにいつくも  
のりまはれもたはにとくまうあふ  
夕下野の能谷うり寺よかくのゆうさん  
かろうく。余にけ具あふりくまふし  
くれはげふさふつたぐまうらる。も  
わどつものもこくにけふさげ

○紫雲石

塔うらと山一町むりりいさ

は然上人用法をいふこの石うりけい  
やじくうとやう。そまよしてけ石とく  
なづ

け寺もくも紫雲山と号し  
石小堂よ入とふ人これそりくま  
がらひしん

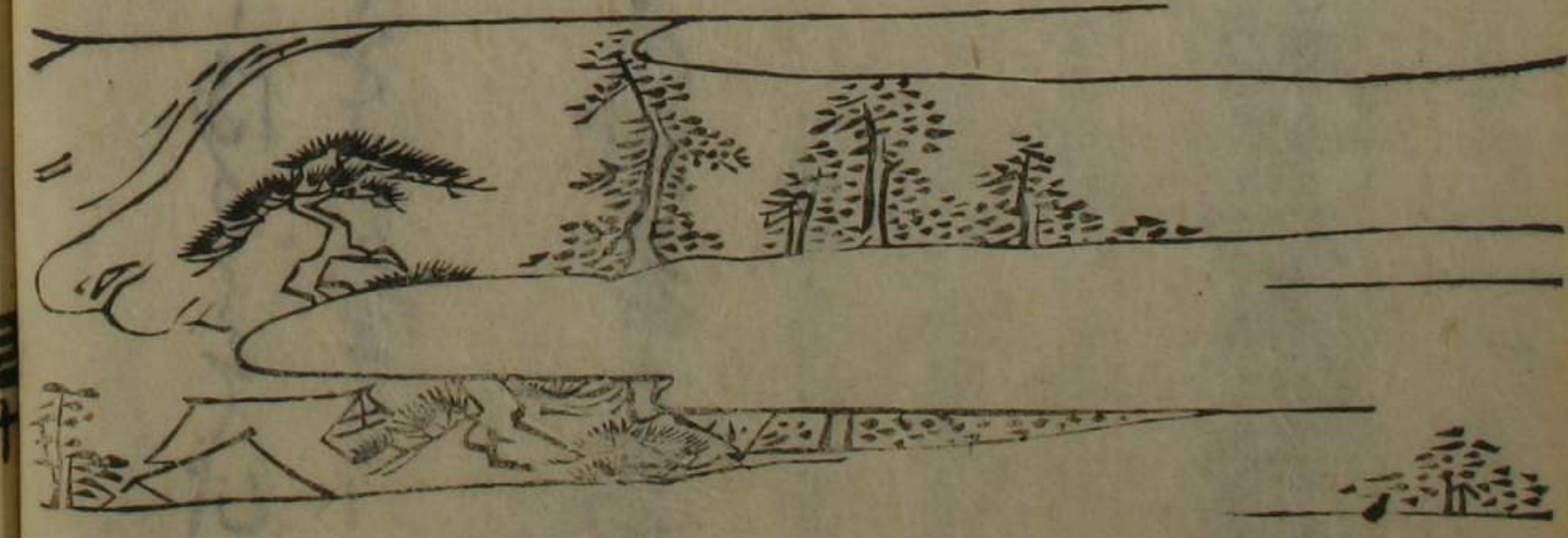
万日寺 け家う石の小也。け寺の用基を高  
麗人ウ宗おと云

畠崎

○けふハア谷うらと東  
悪前多末足道年人莫通在乍毛公之曲道為



智恩院





智恩院

○け寺を洛陽の東也

兼安四年漁空<sup>えんくう</sup>里谷<sup>りや</sup>とのりて台水<sup>たいすい</sup>ありて。これを  
 龍念<sup>りゅうねん</sup>の法<sup>ほふ</sup>をいさめ侍<sup>さむらい</sup>ももんけ院<sup>いん</sup>志<sup>し</sup>の  
 時の建<sup>たて</sup>造<sup>ぞう</sup>をまもる。けく。漁空<sup>えんくう</sup>のよ。けにまもるに  
 甲<sup>か</sup>馬<sup>ま</sup>谷<sup>や</sup>のトにとてをり

吉水

○智恩寺の造るる

一心院

○け院。智恩院のどなり

てんてんてん

真葛魚

○けし智恩院のうんたう草部とて  
葛徳まのよふおまのねんしくと乃そ免  
のくまらうつらうにんさうぐなり

葛鎮石 けし智恩院のありく門二町より  
入く中かひのよ世話うてんま葛鎮けし  
うけけくまらうぐらうらうらうらうらう  
らうらうらうらうらうらうらうらうらう

古今石の名わら事。おれおれ那とえにや  
まの越まれ石橋石後八興安縣とのり。京都建  
平二郡のさうひよんよ似ては二るさきと二郡督

郡やなぐ。宋の國乃及人の遊石とあくたう  
と。楚の熊渠子ふとんく虎とあひ知と  
はうら。黄初年へふ瓜叱つてく羊とあひ  
武帝ふとたつてく報と。海州のうらうら  
の多と解るのくよしとび李海格のうら  
乃興の醒ふまらふはく。わのうらうら  
南の石八女やなり。武思のよ女けくうら  
まはか。まらうらうらうらうの國の字ふら  
うらうらうらうらうらうらうらうらう



祇園

○け宮の南向也。鳥井之感神院と云額。其の  
 左記の青蓮院尊純法親王其の御母なり。  
 其の御母の風光を記す。いふ。あづきくた。  
 松乃を生むる。林好く。いふ。あづきくた。  
 よろく。いふ。あづきくた。いふ。あづきくた。  
 け宮の南向也。鳥井之感神院と云額。其の  
 左記の青蓮院尊純法親王其の御母なり。  
 其の御母の風光を記す。いふ。あづきくた。  
 松乃を生むる。林好く。いふ。あづきくた。  
 よろく。いふ。あづきくた。いふ。あづきくた。  
 け宮の南向也。鳥井之感神院と云額。其の  
 左記の青蓮院尊純法親王其の御母なり。  
 其の御母の風光を記す。いふ。あづきくた。  
 松乃を生むる。林好く。いふ。あづきくた。  
 よろく。いふ。あづきくた。いふ。あづきくた。





一。天下の病災を癒せんと欲するなり。  
興<sub>ニ</sub>神社考にみくくあり

臨時祭者六月十五日也。崇徳院天治元年始号  
勅使殿上立位奉<sub>ニ</sub>疎遊<sub>ハ</sub>有宣余令旨又有走馬勅  
樂東遊歌云

よみそをよみつらしくせの如く人もしくしり

後三条院は時祇園ふひ<sub>ハ</sub>奉<sub>ニ</sub>遊<sub>ハ</sub>おもはるる遊お  
うにふへ<sub>ハ</sub>身<sub>ハ</sub>奇<sub>ニ</sub>め<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>き<sub>ハ</sub>ハ<sub>ハ</sub>藤<sub>ハ</sub>魚<sub>ハ</sub>經<sub>ハ</sub>衝<sub>ハ</sub>宗  
千<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>振<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>この<sub>ハ</sub>園<sub>ハ</sub>なり<sub>ハ</sub>娘<sub>ハ</sub>も<sub>ハ</sub>松<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>代<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>婦<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>身  
く<sub>ハ</sub>め<sub>ハ</sub>なり<sub>ハ</sub>たり<sub>ハ</sub>なり<sub>ハ</sub>や<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>よ<sub>ハ</sub>め<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>。後拾遺<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>あり<sub>ハ</sub>。玉葉集に祇園御神の代奇<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>我宿<sub>ハ</sub>

を<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>揚<sub>ハ</sub>花<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>つ<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>人<sub>ハ</sub>と<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>人<sub>ハ</sub>代<sub>ハ</sub>身<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>の  
舞<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>し<sub>ハ</sub>ん

御靈會六月十五日也。け日ハ三条大路に  
ち<sub>ハ</sub>何<sub>ハ</sub>へ<sub>ハ</sub>十八<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>心<sub>ハ</sub>なり<sub>ハ</sub>。御<sub>ハ</sub>輿<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>け<sub>ハ</sub>け<sub>ハ</sub>わ<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>  
ぬ。その七白<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>は<sub>ハ</sub>採<sub>ハ</sub>下<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>出<sub>ハ</sub>なり<sub>ハ</sub>。その  
お<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>あ<sub>ハ</sub>ち<sub>ハ</sub>後<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>七<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>れ<sub>ハ</sub>か<sub>ハ</sub>ざ<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>か<sub>ハ</sub>こ<sub>ハ</sub>十八<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>ま  
ふ<sub>ハ</sub>は<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>も<sub>ハ</sub>と<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>ま<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>。け<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>め<sub>ハ</sub>。法<sub>ハ</sub>陽<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>祭<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>け<sub>ハ</sub>  
かり<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>い<sub>ハ</sub>ふ<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>け<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>ん<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>つ<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>  
く<sub>ハ</sub>ま<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>人<sub>ハ</sub>の<sub>ハ</sub>肩<sub>ハ</sub>い<sub>ハ</sub>ざ<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>を<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>く<sub>ハ</sub>。家<sub>ハ</sub>に<sub>ハ</sub>  
く<sub>ハ</sub>ま<sub>ハ</sub>る<sub>ハ</sub>け<sub>ハ</sub>り<sub>ハ</sub>と<sub>ハ</sub>く

癡止地藏

○け堂ハ祇園所建仁者へさう坊偶なり  
世とほつたもの仏はぢり。月わげらるるもの。  
彩敷とかぢりぞいゆらるる

四糸河魚

○此よりうろたがひて二町うろたはるるもつらうん  
種々つらうんかさつらうん。思ひあぐれたら  
ぞいのしし。孫がうろたへく。こころ。或徳徳  
かさめけ祭ふつし。もどき。由來のの  
ゆつし。いんきつ。ごのさうも教へてはる。  
たや拍子あつて琴鼓なつて。物うろたへる。

物ハこころをきつらうん。人形うつて。いん  
けいもわいら。つらうん。あぐれたら。あ  
つらうん。あぐれたら。あぐれたら。あぐ  
れらうん。あぐれたら。あぐれたら。あぐ  
周の穰王かすつらうん。や。偃師とつらうん。或氏木  
んをけいんきつ。あぐれたら。あぐれたら。あぐ  
つらうん。漢陳平のつらうん。あぐれたら。あぐ  
一へあぐれたら。あぐれたら。あぐれたら。あぐ  
刻朱着衣鳴佩。あぐれたら。あぐれたら。あぐ  
去人間世々外誰言半由閑  
ハ詩はくつらうん。あぐれたら。あぐれたら。あぐ



くぐん半臂ひだりやうやうかゝるやうなうは  
いふまゝいふたふもあせらる僕子やうしぐ  
道せばさるて振野ふりのあうりうりるるを  
かめけいんかま杖つゑのこゝのまてたふ。とく  
あゝあう見た出ま一帽子ぼうしはあさぎも  
さんぶう風やうやうらうらうも。え物  
海うみささめくたされまむまごころなま  
とむぶこらうさうやう。是より打うつた  
急いそうぶひ。いんせういんや月つきは  
ちのく。客きやく乃のみ枯く槁かうせしをわらうら  
いみく。人ひとさ妙まうとくうの

長樂寺ちやうらくじ

○ける。祇園ぎげん北東きたとう双林寺じやうりんじのわらう。なる八十  
一面いつめん観音くわんおん也。一いち准じゆん胎たいといふ。宇多うた院いんを  
創はじめるまわらう

けしうのね下しも抵たい上じやう人ひとを。建けん礼れい門もん院いんを戒かいの  
師しもく。安あん德とく天てん皇わうの法ほふ衣いを白しろいにす  
りてくらいのきらうのや

丸山まるやま

○長樂寺ちやうらくじ北南きたなん双林寺じやうりんじのわらう也。を山さん双林じやうりんの  
らのと同どうく遊ゆう庭ていのとらやくしひまらう  
つの日ひわらう

双林寺

○け寺を丸山の南。祇園より聖公の寺なりし  
なる。其薬師なり。尤大史尾張定鑑の建立  
し。高基寺

寺の中ふ西行法師の秘蔵せし様よく  
塔なるが雛よりつみふと伝ふなり。なむびり  
あり。墓あり。其外平判官康頼入道定照  
の塚あり。一々セ康頼丹波の将成経法勝寺  
後寛僧都ともなり。及遠のらんありて  
薩にんがら硫黄嶋へ流滴せし事。ことせし  
て。少将とせしにゆりて終る。のら康頼の墓  
あり。すもむるむなる。す。平家物語終るしにふ  
ことせし。

高基寺

○け寺を双林寺の南。八坂より北。自然居士住後  
一雲居寺の旧址也。関白秀吉公此小政平の所  
善提下なり。す。一め曹同家公の所。力ありて  
建仁寺の末寺也。

八坂

○け塔は清水の祇園やれ中かど。高基寺の南  
南の五層なる塔也。法観寺と云。淨藏貴殿の  
加持乃塔と云ふ。

淨苑貴所ハ三善朝長清行弟八の子。海濱  
乃人あり。寛平三年に生れし母は嵯峨帝  
女孫女也。藏四歳ありて字文を誦し。三つ  
を智恵とらむ。七歳乃春茶。外人よおほそ  
て。春茶とて梅花つ枝おしせ。清しき宮に  
ゆるりしき。父おもゆることおほく。や。叔  
翁福海心は清くに。神童花ををむく  
然りし川とて。仙人よ知し。せ。又。觀山  
に乃が。胎も。牙子とて。僧長あり  
よ。海新園あり。淨る。胸痛を患る  
る。つと。バ。光。く。か。つ。や。め。つ

つと。あ。その。ら。あ。ら。さ。あ。う。あ。ら。  
布施伊能といひ。今にけ。氏に。最。  
その。と。ぞ。天曆年中に。八坂塔。こ。ふ。  
その。と。つ。び。つ。あ。つ。海。一  
は。う。ら。と。海。よ。こ。に。向。わ。く。官人  
あ。は。ら。み。く。息。あ。つ。あ。に。つ。の。せ  
ゆ。い。假。山。山。宝。澤。を。ぬ。こ。こ。て。  
その。あ。か。か。に。わ。ら。る。あ。や。又。あ。二  
る。と。藤。ど。に。乃。世。傳。の。水。も。お。か。つ。  
々。と。ば。ら。ら。つ。つ。と。と。又。藤。家。に  
桃。實。お。ひ。つ。あ。つ。と。こ。子。孫。が。あ。つ。つ。と。

美兒みこしてあおげく。桃とやうに如藏八  
 坂寺に富とみくくの中。賊あはれおほく入いて。呪のろよ  
 く。御みの具ぐよきこと。へいへいとや。ま  
 異いふとく。やうゆり。如藏にょざうのまのめを  
 うう。頭密かみひそにわくく。悉しつ果くわ天文てんぶん易筮えいし鉄筒てつとう  
 信管しんかん三音律さんおんりつ文筆ぶんひつ伎藝ぎぎ乃なくく。以も貴き保ほ  
 振ふ平へいのく。康保元年仲あつ子一月に。雲  
 居いさよあしあしく。遊あそぶ。如藏にょざう七十四

美兒みこしてあおげく。桃とやうに如藏八  
 坂寺に富とみくくの中。賊あはれおほく入いて。呪のろよ  
 く。御みの具ぐよきこと。へいへいとや。ま  
 異いふとく。やうゆり。如藏にょざうのまのめを  
 うう。頭密かみひそにわくく。悉しつ果くわ天文てんぶん易筮えいし鉄筒てつとう  
 信管しんかん三音律さんおんりつ文筆ぶんひつ伎藝ぎぎ乃なくく。以も貴き保ほ  
 振ふ平へいのく。康保元年仲あつ子一月に。雲  
 居いさよあしあしく。遊あそぶ。如藏にょざう七十四

